

(様式1-2) 新規評価シート

事業名		地すべり事業		路河川名等	矢田川(塩沢川)				
事業毎の通番		1	市町村名	大町市	箇所名(ふりがな)	塩沢川(しおざわがわ)			
事業の位置づけ	県総合5か年計画における位置づけ	1-2 ① 災害に強いインフラ等の整備の推進			SDGsの関連目標				
	関連する計画や重点施策	第3期長野県強靱化計画			関連する事業プロジェクト	令和2年度交付金(総合流域防災)(砂防) 矢田川 大町市小田谷			
	現状と課題	令和2年7月8日に地すべり性崩壊(幅100m、延長200m)が発生し、直下の市道及び治山ダムの埋没する被害が発生した。また不安定土塊や倒木で河川が閉塞し湛水池が発生したため、次期豪雨等により土石流発生に繋がる危険な状態となった。このため、令和2年度から令和4年度までの間、避難体制に供するための緊急調査並びに河川内倒木除去及び河道開削の応急対策工事を実施した。令和6年度から、地すべり解析調査を実施し、本対策工事の検討を実施する予定である。							
	事業目的	山腹内には不安定な地すべり土塊が堆積していることから、令和6年度から事業を導入し、地すべり活動を抑制させ下流の保全対象の安全を図りたい。							
着手年度	2024年度(令和6年度)		事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完了年度(予定)	2027年度(令和9年度)					国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容	山腹工2.0ha 集水井工1基:H=20m ホーリング暗渠工2群:L=680m 水路工L=340m 溪間工0.3ha 谷止工(鋼製)1基 床固工(鋼製)1基				284,900	142,450		113,960	28,490
事業概要	位置図		平面図						
	地すべり全景		地すべり崩壊内部状況						
	断面図								
事業効果	主な受益対象	県道、中学校							
	期待される効果	地すべり対策を行うことにより、県民の安全・安心な暮らしが確保される。				費用便益比(B/C) ※B=便益、C=費用	1.4		
	人口減少を踏まえた将来の活用見込み	人口が減少しても、県道舟場矢下線は生活道路として活用される見込みである。また、八坂中学校も活用される見込みであり、将来的に事業の効果は見込まれる。							
計画熟度	地域からの要望経緯及び地域の関わり	令和2年10月20日に八坂地域づくり協議会から北アルプス地域振興局長あて「八坂塩沢川の地すべりに関する要望書」が提出される。							
	事業説明等の経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・R2.7.17: 警戒避難体制の説明(関係機関及び地元集落) ・R2.10.9: 関係者打合せ(各機関の対応確認) ・R5.2.17: 関係者打合せ(各機関の対策状況と今後の対応) 							
評価結果	所管課の意見	当箇所では地すべりが発生し、再度活動が活発化すると下端部にある塩沢川へ土砂が流入し、河道埋塞に伴う氾濫及び湛水の恐れがある。保全対象である県道、八坂中学校を地すべりによる被害から守るため、早期に事業を実施する必要がある。						妥当性評価※	優先度評価※
	政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○	4.3
	県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—		評価の決定	事業着手		

※【妥当性評価】事業実施の妥当性を「○」「×」で判定 ※【優先度評価】事業着手の優先度を5点満点で評価(数字が大きいほど優先度が高い)